

三月廿二日戊辰之仲冬癸卯立春

平成28年10月30日(日)

卷之三

飯山本木半良 江戸ヨリ十五里。此地ニ飯山ト
唱フル山アルニヨリ 村名トスト云。飯山郷ト唱

津湯ノ澤大ハタ澤中又津等ノ數流此川ニ會
治中程ヲ流ル四間^{一丈二}田間ノ用水ト土橋五
テ架ス需橋二十手頸橋長十人保橋^{一丈八}菩提
橋三間石橋^六等ノ名アリ。

井手町役場金剛院
天正十七年
文書小田原新宿町民芳賀
井山ト記シタリ。元禄ノ改ニハ、上下ノ二村ニ分
所ト記シタリ。二村ニ一村ノ事也。

本地彌陀藥師十一面觀音共二十一面、行基像、長天、
十九年社領二石ノ御朱印ヲ附セラ。例祭六

上傳燈錄二見工少郎大光福寺條に出下母入道光阿ノ舊梗ニシ古美子幸光傳領セ詳ナリ。應西村ニ限リ事アトアタヌ事ハ國能也詳ナリ。應

石地藏一鯨 背二文明六年ノ鉛アリ今迄里
化之尊像相列飯山寺文明六年甲子卯月願
主小比丘恩慶上刹又詔文此二時當種成院

志菊壽丸ノ知行ニ死行シ。名菊壽丸又新田某
給分ニ配當ス。菊板金剛正院文書曰。相帳譲可
シテソニ假下。安スレニ菊井。乙癸。大山。

另置齋院
小田原上
滋賀縣
開山恩隆
文昭二年九月十九日辛未
古瓶二口
什物ト
又。古鏡ノ
其蓋ト一
鏡面ニ
細刻人等
皆傳

シ役帳ニモ北條幻庵内室ノ知行ニ屬シ。又新
某ノ配當地タリシ由見工タリ曰柳斯達知行
合百六十貫三

護摩堂

内三入正ノ時モ新田氏ノ所務セレ地タリ
ト見工。村内金剛寺所戲毛正十年断
田日向山林ノ寺附セレ状ア居同十七年
田原籠城ノ用意トシテ當所ノ般工ニ命レ

石神社三
舞天社
村民持下同。

備前守成春紀文。今大父保佐渡守忠保領。ト。三
科子ナリレ。享保十三年先世佐渡守春泰ノ
母又川元保ノ娘八女野備前守。余後承
家承。一。玄孫。一。玄孫。一。玄孫。一。玄孫。

八此社ナリ。共文同寺。
條ニ出ス。

長澤太蔵 横大山ニ建部西
三矢官近村川入人傳長澤
永四年史部氏節火照廣光。前田信政守安長
守資親率。賜八ノリシト音當封毛其時

飯山寺ト號シ。觀慶元年(文常)、長谷

九、並程一工合ノ二 跳力、ル
場七

ヨリ出現スト云。今行基作同像長三尺ノ腹籠
リトス。又同作ノ像ヲ置。長三尺五寸。元ハ彼美
セント申ル。一寸八分。半傳。此像ノ腹籠ト

中程ニ在、一ニ飯盛山ト呼其状器ニ飯ヲタルニ似タリ。豈一可也。

建久中源頼朝秋田城分義景ノシテ。造營ノカラ
ヘシメント云。以上無從ニ戴ル所ナ。故未観

兒塚名義八
人姓二出云村
ト云アリ。

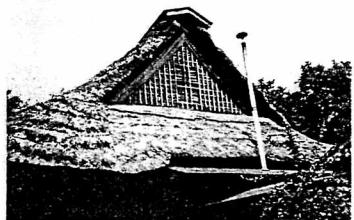
珠 一主アリ、各給ノ地頭入會ノ持ナリ。
珠 東方ニアリ。水吉塚^{美主興}ト唱フ。高三塚上
二白檀一株アリ。圓四人許。

寺ニ發向ヒ。遂大住郡日向山ニ到リ。レ事。喜波

嘉吉二年ノ鐘銘ニモ當寺ノ住僧閻勝ノ名見



富士系甲屋根（山梨県精進湖畔『滅びゆく民家』）



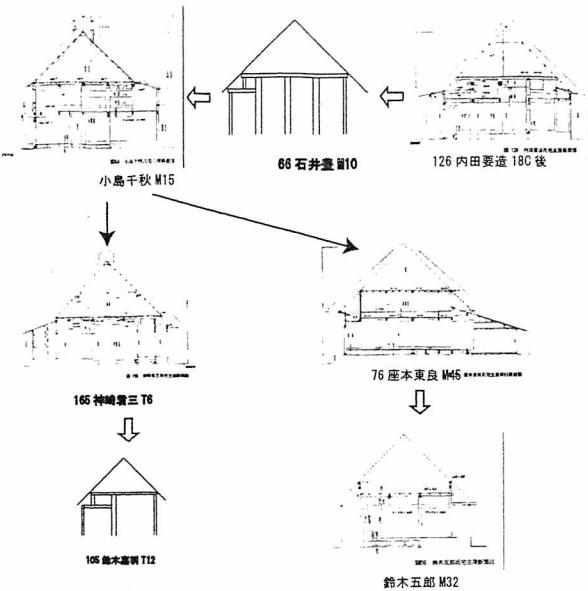
入母屋極大破風（津久井郡藤野町
1967『日本民家の研究』）



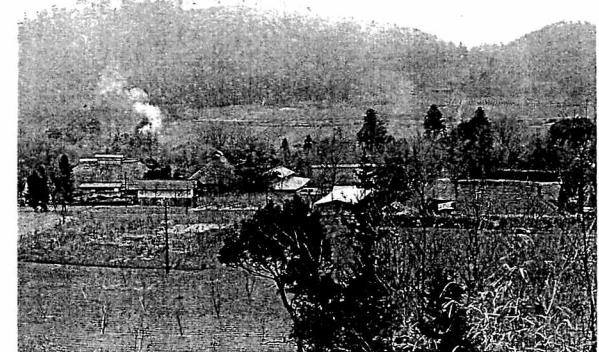
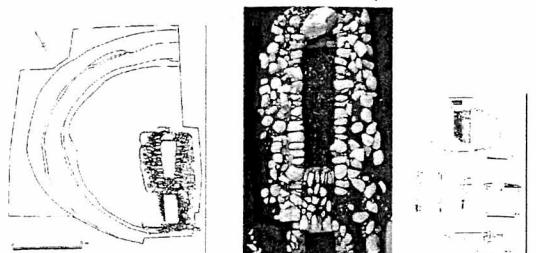
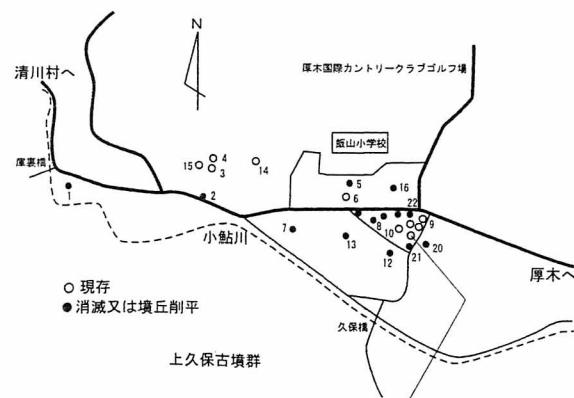
甲州ヤグラ造（石和町 1951『日本民家の研究』）



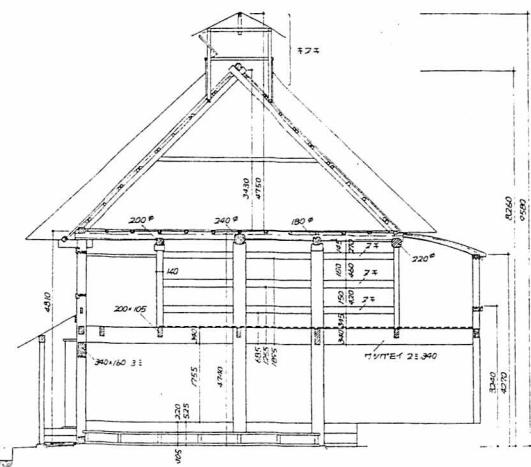
赤城型の民家（前橋市 1967『日本民家の研究』）



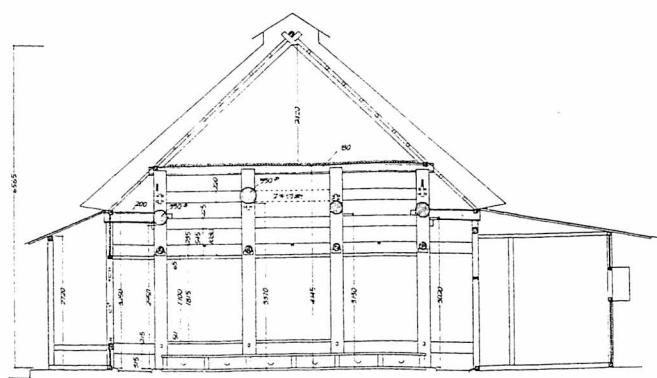
養蚕民家の変遷



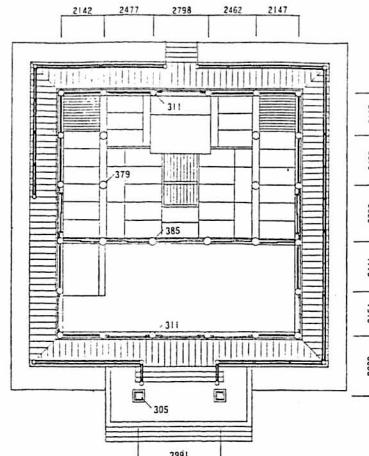
飯盛山付近（昭和 40 年<1965>『厚木市の昭和史』）



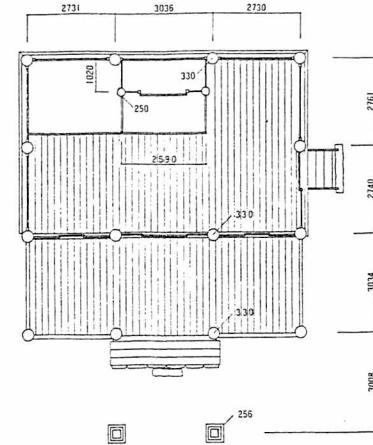
小島千秋氏宅主屋断面図（『厚木の民家』3）



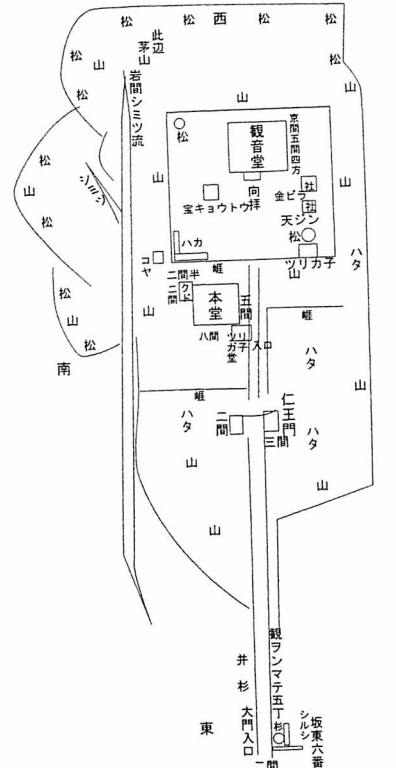
小島正一氏宅主屋断面図（『厚木の民家』2）



観音堂平面図 (『厚木の社寺建築』)



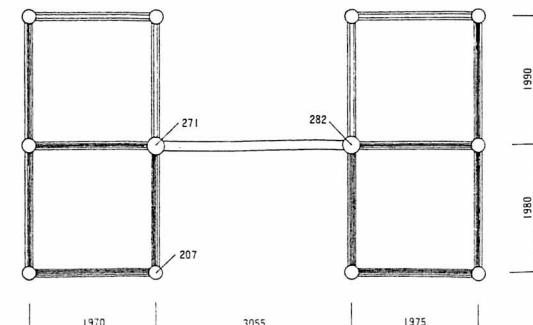
大師堂平面図 (『厚木の社寺建築』)



明治 2 年 (1869) 長谷寺境内絵図
〔『厚木市史』近世資料編 (1) 社寺〕



飯山光福寺西の家並み (昭和 37 年 (1962)) 『厚木市史の昭和史』



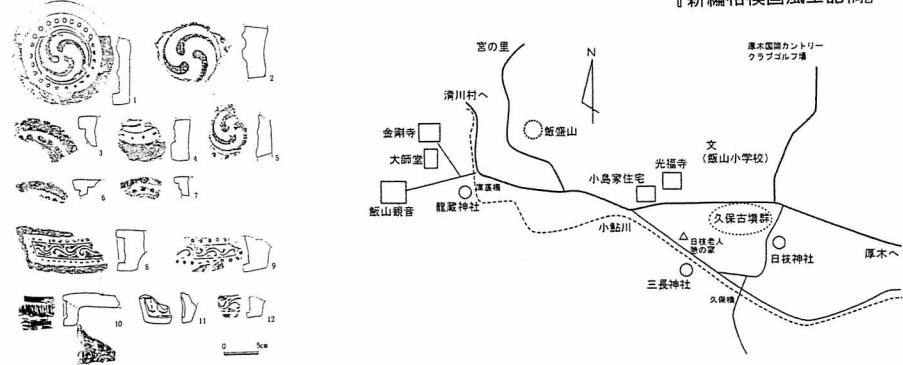
飯山観音山門平面図 (『厚木の社建築』)

後年漸微シ。寺號及大師
ノレ。天文中僧忠州。五年七月四日奉
上郡最乗寺輪壽ノ序當所ノ觀音及當寺ノ大
師堂ニ禮拜通夜セシ時護神ノ告ニ任セ輸番
華テ此所ニ未リ。再建シテ今ノ宗派ニ改ム。因
テ忠州ヲ開山トセリ。天正十年新田日向村内
印ヲ賜フ。

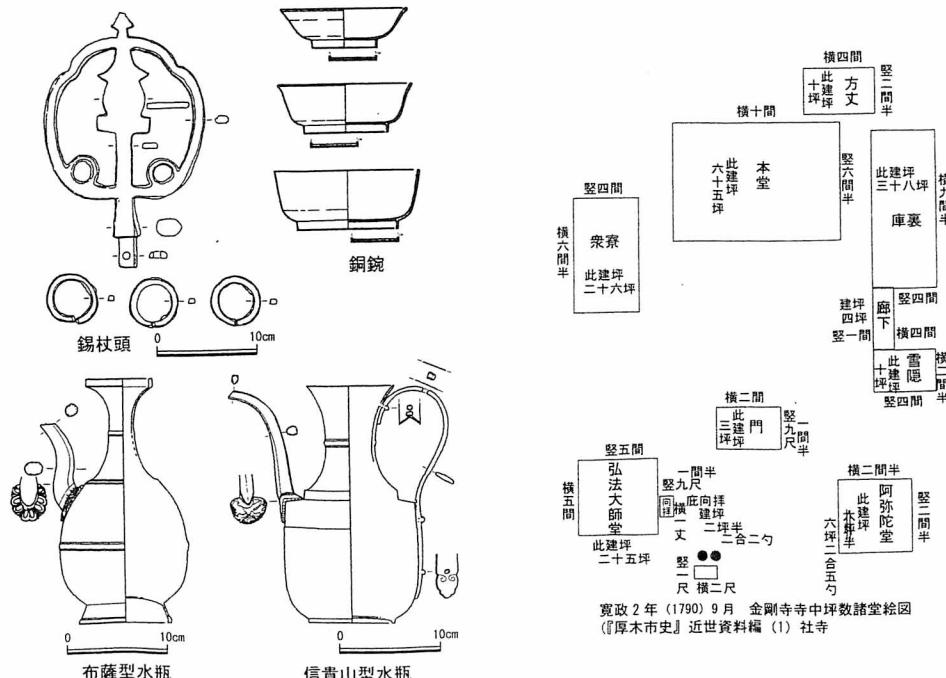
錫杖一握
銅鉢一口
唐銅水瓶二口以上三品
阿彌陀堂 大六ノ像ヲ置弘法佐ノ彌陀立像
傳。法名盛長院三空道無大居士ト號ス。治
義ノ漢。長當所ニ来リ。靈地ナルヲ感ビ卒
後其遺骨ヲ送リテ墓スト云々²
安達藤九郎盛長墓 五輪ノ塔ナリ。刻辛ノ寺
主。十一夜千林タ安ス。古ノ本尊ナリ。
大師堂 空海三十四年ノ時自依ノ像丈一尺
般若

山林ヲ寄附ス。延喜文書曰。大師院
山之事に著中山望守焉。山之事に著中
山之山下澤ノ切。木内者無野。若木半
冬度放舍可也。然候木在大之跡。可
度。然候木在大之迹。追迹。然候木在
白半。神守。心月。白野白山ノ山脚
山之神。社分。寺門。寺内。日向村内
教ハ。中山。追陽。天正十九年寺領五石ノ御
朱

『新編相模国風土記稿』



金剛寺出土瓦 (『厚木市史』中世資料編)



寛政 2 年 (1790) 9 月 金剛寺中坪數諸堂繪図
〔『厚木市史』近世資料編 (1) 社寺〕